

| | |
|-------|--|
| 日時・場所 | 令和4年11月10日（木）13時30分～ 第1委員会室 |
| 出席者 | 栢木市長、佐野副市長、西村教育長、遠藤議会事務局長、赤坂政策調整部長、井狩総務部次長、長尾市民部長、吉田健康福祉部長、田中健康福祉部政策監、布施健康福祉部政策監、武内病院事務部長、三上都市建設部長、吉川環境経済部長、馬野教育部長、事務局 |

1. 開会

2. 議題

【審議事項】

①野洲市民病院整備 基本構想・基本計画書について

野洲市民病院の整備において、基本構想としてめざす病院像と、基本計画としての総合体育館東側市有地における病院整備の計画内容を一体的に整理するものとして策定した「野洲市民病院整備 基本構想・基本計画書」について報告する。

なお、本日の会議終了後、評価委員会の委員に本資料を速達等で送付する。また、まだ説明できていない委員に対しては説明に伺う。

評価委員会は11月14日（月）13時30分から開催予定である。翌週21日（月）9時から市議会において、市民病院整備特別委員会を開催いただく。

→今後、この計画の実現に向けて現場のスタッフの声ができるだけ反映されるようお願いしたい。また、医師等の確保が収支に結構影響してくることから、病院としても前川事業管理者を筆頭にできる限り人材確保に努めていくが、大きな心配事として共通理解願いたい。

→人材確保の一番の策は、新病院の見通しをまず確立させることである。このことを念頭に事業を進めていく。この基本構想・基本計画を成案化することで医師の確保、スタッフの意欲向上に繋げていきたい。

→総合体育館敷地にはコミュニティバス（おのりやす）の拠点があるが、影響はないか。移転を要するなら協議していただきたい。

→現地調査を行ったが、今のところ影響はないと判断し、現状のままで運用できると考えている。

→資料に新規駐車場とあるが、どこか。

→現在協議中のため具体の回答は控えさせていただく。

→栢木市長の「現地半額建替え」という公約はインパクトがあった。それだけに、資料に記載されている93億円の事業費に対する市長の評価はどうか、という質問が出てくると想定されるので、検討しておくべきではないか。

→これまで何度も説明してきたが、「駅前に病院を整備しない」というのが私の公約である。整備場所について二転三転して皆さんに迷惑を掛けたが、それは一日も早く病院を整備するために行った判断の経緯だと思っている。（市長）

→医師会との協議の状況は。

→5月の特別委員会の後、市長、副市長に同席いただき医師会の役員会において市の考えを説明させていただいた。その際、今後基本計画等の精度を高め、改めて説明させていただきたいと

申し上げた。その機会をいつにするか、という状況である。

先般、評価委員会委員の代理である小西会長に、現在の状況と資料の内容について説明に伺った。引続き根拠のある説明を尽くしていく。

→看護協会、薬剤師会等の調整は。

→看護協会は評価委員会の委員に含まれているが、今回は都合により欠席のため、資料提供する。

薬剤師会とは従来からも特に調整はしていないが、設計の段階以降情報を共有していきたい。

→病院事業債の繰り上げ償還について、その財源は一般会計からの繰り入れだと思いが、財政調整基金を取り崩すのか。このことについて財政課と協議できているのか。

→財政調整基金を取り崩すことについて、財政課と協議できている。

→基金の取り崩しの目的について、問題はないのか。

→内部の協議において、そのように判断している。

→今後、公共施設の大規模改修等が目白押しで投資的経費が必要になる。それでも大丈夫なのか。

→投資的経費については、今後公共施設等整備基金を積む予定をしており、それで手当てできると見込んでいる。

→財政見通しに、大規模事業を明示しておくべきだと考える。(副市長)

→今回の計画を進めることで、新病院の整備コストと別に駅前市有地の病院事業債の一括償還が生じるが、これは今回の整備コストに合算しておく必要はないか。

→比較表は各計画のイニシャルコストを計上しているので、そこには上げていない。

→一括償還により費用が発生することを明確にしておく必要はないか。

→一括償還をすることや費用、方法については別に1項目設けて明確にしている。今回一括償還によりキャッシュは要するがそれによって純粋な市の財産となる。そのあと別の公共事業に活用したならその事業のコストに計上すればいいもので、使わなかった土地代までを病院整備のコストに上げる必要はないと考える。

→特別委員会の資料について、前の計画との違いがわかりやすいようにという議員からの声があるので、工夫をお願いする。

→特別委員会では、変更箇所を黄色マーカーして配布する。

→病床の内訳について、想定稼働率が記載されているがその根拠は。

→患者数を見定めた上で割り戻して病床数を定めているので、十分クリアできる。

→診療科構成に小児科、婦人科、眼科とあるが、これらは診察室のスペースが広く、機器も特殊である。できるだけ早く医師確保できるのかどうか見通しを立てるのが大事である。

→所管課としても、早期に結論を出すべきであると考えている。

→維持期病棟について、障がい者又は医療療養で検討中とのことであるが、両者は診療報酬が違うし、スタッフの配置も変わってくる。これも早い段階で結論を出した方が良いと思う。

→院内プロジェクトチームとすり合わせをしながら本日に至っている。結論は設計等、次の段階に持ち越すこととしている。地域ニーズを見定め、早期に結論を出したい。

→駐車場について、総合体育館を所管する教育委員会は了解されたのか。

→これまで病院整備担当と協議させていただいた。管理面等で若干問題点はあるが、引き続き協議をしながらより良いものにしていきたい。

3. 次回部長会議の予定

11月14日(月)9時00分～ 庁議室

4. 閉会